



御届明治十年七月十九日 鬼平金四郎著

日光諸社案内記

定價金壹錢二厘

特別
ル3
3617
89



日光案内畧記

鉢石町々出て○神橋山管の蛇橋と云古事多し
○中山通り石の方満願寺此地内ニ兩大師并相
輪塔金唐銅高三丈余○本堂三佛堂間口十八間
奥行十四間高二十三間○石鳥居ハ黒田筑前守
殿國元々運ひ上ル高サ三丈二尺廻り壹丈二尺
笠石長さ七間三尺御影石也○五重塔高三十三
間酒井若狹守殿より上ル十二支彫物あり○何

日光
今市
大澤
徳次郎
宇都宮
雀宮
石橋
小金井
新田
小山
間田
野木

るう丸ありめ石を入口の門三ツ棟ありー金の
唐獅子彫りの菊の籠が象頭梁鼻雲模也唐銅
石燈籠諸大名より上りあり○神木榎木○三神
庫三ツ宝藏○既白木造猿のぼり物○水屋石の
まーら十二本金ありとの打浪飛龍の彫りの手
水鉢石ハ四尺ニ九尺あり鍋島殿より上り○二
の華居○南をん鐵の燈籠仙臺殿より上り○旧
一切經堂笑佛三像あり俗に笑堂といふ○中段

日光
東京
千住
越谷
幸手
栗田
中田
古河

